

バスがつなげる人とコミュニティの復活事業

武豊町コミュニティバス利用促進友の会

武豊町

団体概要

団体名： 武豊町コミュニティバス利用促進友の会

代表者： 会長 櫻場 敬信

団体目的： 武豊町のコミュニティバスの利用促進を目的に、町民自らが「おらがバス」の意識を持ち、バスを通じてコミュニティ活動を展開

活動地域

武豊町内全域

取組の経緯・背景と目的

武豊町では、平成 16 年に公共施設をつなぐ巡回バスの試行運行が行われたが、利用者数が少ないことを理由に継続されなかった。平成 22 年 7 月より、高齢者・障害者等の生活の足として、病院や商店、駅をつなぐコミュニティバス「ゆめころん」が、5 年間の計画で運行が開始。しかし、利用されなければ 5 年後には姿を消す可能性があるため、前回の失敗を繰り返さないよう、コミュニティバスを地域住民に愛され、利用されるバスになるようにする必要がある。

そのためには、クルマを所持していない方々だけでなく、コミュニティバス自体が住民のコミュニティの場として活用されることが大切である。町民自らがコミュニティバスの企画運営に関わる仕組みをつくり、柔軟な発想と行動で住民のマイバス意識を向上させることを目的に活動している。

コミュニティバス「ゆめころん」の概要	
運行開始日	平成 22 年 7 月 27 日
運行日	無休（12 月 29 日～1 月 3 日は運休）
運行時間、本数	8 時 30 分～17 時 30 分、22 便
運行ルート	①基幹 緑ルート 右廻り（武豊町役場―石川公園―武豊町役場）6.9 km ②基幹 緑ルート 左廻り（武豊町役場―石川公園―武豊町役場）6.9 km ③北部 赤ルート（武豊町役場―アオキスーパー前―武豊町役場）7.7 km ④南部 青ルート（武豊町役場―名鉄富貴駅東―武豊町役場）9.0 km
運賃	100 円（未就学児、障害者等の介助者は無料）
運行車両	小型ノンステップバス（乗車定員 27 人）2 両
運行事業者	フジキュー整備株
平均乗車人数	約 80 人／日

■取組のポイント

- ・バス自体をコミュニティの場として活用し、マイバス意識を向上
- ・地域住民に親んでもらうための工夫をこらしたニュースの発行
- ・コミュニティバスと観光の連携

■取組内容

平成 22 年度/バスがつなげる人とコミュニティの復活事業「マイベンチ計画、朝市にいこう、ポイントカード」

○マイベンチづくり

コミバス利用者の多くは高齢者であるため、バス停に設置するベンチを作成。ベンチは、「マイベンチ」の意識をもってもらうため、住民に参加を呼び掛け自らベンチを制作。



マイベンチづくりの様子

○「朝市にいこう」の実施

堀田稲荷付近の大足地区に、古くから朝市が行われていたが、クルマの普及と大型商店の進出により、朝市が衰退しつつある。そのため、遠くまで買い物に行けない高齢者にコミバスを利用して朝市に行ってもらい、コミュニティの場としての朝市の復活を実施。



「朝市にいこう」の様子

○ポイントカードの実施

コミバスは運行開始直後であったため、継続的なPR活動として実施。1回乗車で1ポイントとなっており、ポイントを集めるとポイント数に応じて、景品をプレゼント。

○コミュバスニュースの発行

事業にあわせて、4回発行。イベントの告知や事業報告、会員募集を掲載。町内へ全戸配布または回覧を行った。親しみをもってもらうため、メンバーによる手書きでニュースを発行。



コミュバスニュース

平成 23 年度/バスがつなげる人とコミュニティの復活事業「バスが広げる観光とバス活用レシピカード」

○バス活用「おでかけレシピカード」の作成

「ゆめころん」の時刻表をただだけでは、どこでどのように乗れるのかがわかりにくいため、「ゆめころん」を上手に活用する、バス停ごとに複数の行き先別の乗り方をわかりやすくした小さな「おでかけレシピカード」を作成。



おでかけレシピカード

○バスでおもてなし観光ツアー「住民のおもてなし観光」の実施

将来、観光客を名鉄知多武豊駅・JR 武豊駅でお迎えし、「ゆめころん」に乗って観光ツアーにでかけることをイメージし、観光ボランティアと協力して住民のおもてなし観光ツアーを実施。



おでかけレシピカード

○いつでも情報誌（ホームページ）の作成

これまでの友の会の活動を整理し、情報発信のツールとして作成。

○コミュバスニュースの発行

事業の参加募集・PRを兼ねて、「ゆめころん」の利用促進を目的に4回発行。



コミュバスニュース



武豊町コミュニティバス利用促進友の会 ホームページ

■取組における展開方法・工夫等

- ・マイベンチづくりは、だれでも参加できるように材料をあらかじめ切りだし、組み立てるだけとして、子どもと大人が一緒になって組み立てられるようにしている。また、マイベンチには、参加者の名前を書いてもらうことでマイベンチの意識の向上を図っている。
- ・「朝市にいこう」の実施にあたり、広く町民に出展の呼びかけを行い、町民や地域団体が連携した朝市の開催として、コミバスに乗ってもらうきっかけとした。
- ・コミュバスニュースは、コミバスへの親しみを持ってもらい、町民の目に留まるよう、発行当初はあえて手書きにした。
- ・観光ツアーは観光ボランティアガイドと協力して実施した。



バスでおもてなし観光ツアーの様子



ベンチを利用している様子

■取組の効果

- ・ベンチづくりは、日ごろ日曜大工を経験できない子どもたちが、ものづくりの得意な大人からアドバイスを受けるなど、幅広い世代の交流を図っている。また、ベンチに名前を記入したことで愛着がわき、近所の方が管理するようになっている。
- ・「朝市にいこう」やポイントカードの実施により、楽しみながらバスに乗る機会を創出することができた。
- ・コミュバスニュースは、コミバスを身近に感じてもらえる情報発信のツールとなり、直接バスを利用しない方に関心を持ってもらうことができた。また、手書きでのニュースは、手づくり感が好評を得ている。
- ・観光ボランティアからも、「ゆめころん」を使った観光という新たな発見につながったと評価を得て、今後も定期的に観光ツアーを実施していくための連携を図ることができた。

今後の課題及び展望

- ・観光ボランティアと連携して、定期的な観光ツアーの実施を目指しており、バスに乗ってツアーをする観光コースも増やしていく予定。
- ・「おでかけレシピカード」は、ニーズを把握しながら、レシピを増やしていく。また、レシピカードの活用術の案を町民から募集。
- ・コミュバスニュースはこれまで8回発行。バスイベントの参加者募集や事業報告だけでなく、バスの利用者からの「生の声」などを紹介するコミュバスニュース特派員を増やしていく。
- ・組織運営においてメンバーが固定化されており、活動の負担を軽減することが課題である。イベントや取組を通じて、メンバーを募集し、作業に応じた体制を構築。
- ・朝市は継続的な実施を目指して、モリコロ基金を活用して平成24年に実施を予定。